

愛知県立大学大学院国際文化研究科 国際文化専攻 和田珠実 正誤表

タイトル		協同学習・LTD(話し合い学習法)授業モデルによる英語リーディング授業の改善と成果: －英語自己効力感の観点から－	
校 正 箇 所			
No	頁	誤	正
1		研究者、担当者、実践者、研究実践者 → 筆者に統一する	
2		LTDの字体をCenturyに統一する	
3		ディスカッションスキル、ディスカッションイメージ	ディスカッション・スキル、ディスカッション・イメージに統一する
4		ケーガンストラクチャーに統一する	
5		初中上	初級 中級 上級:全てに級を記載する
6		統計のF値の表記をイタリック体にする F → <i>F</i>	
7	ii 目次 77	5.3.2. LTDの変更	5.3.2. LTDの改訂・変更点
8	2	(Problem-basedlearning)	(Problem-based learning)
9	6	本論文の全8章からなる。	本論文は全8章からなる。
10	12	ケーガン もジョンソン	ケーガンもジョンソン
11	14	伏野(2019, p. 248)の以下の5つとしている。	伏野(2019, p. 248)は以下の5つとしている。
12	19	前向きに授業に向かう姿勢が表れてきていたが、	前向きに授業に向かう姿勢が現れてきていたが、
13	25	表 3-2 step 1 全体の把握	表 3-2 step 1 雰囲気づくり
14	25	ミーティングが授業内で行われる必要性の背景として、	ミーティングが授業内で行われる必要性の背景として、
15	29	LTDを英語のリーディングに適応することで、	LTDを英語のリーディングに適用することで、
16	29	特に認知的とは脳動的な反応を意味し	特に認知的とは能動的な反応を意味し
17	29	教師と学者者の信頼関係、	教師と学習者の信頼関係、
18	36	チューキ法	テューキー法
19	36	この英語自己効力感の尺度の信頼性は係数.91で、	この英語自己効力感の尺度の信頼性係数は.91で、
20	37	「活動性」(7項目内逆転項目3)は、	「活動性」(7項目内逆転項目3)は、
21	42	「いきなりグループで話してください」	いきなり「グループで話してください」
22	47	何がわからないか書くことご予習プリントに	何がわからないか書くことを予習プリントに
23	48	英語自己効力感は変化について、	英語自己効力感の変化について、
24	49	協同作業認識は変化について	協同作業認識の変化について
25	50	互惠懸念は時レベル共に有意差はないが、	互惠懸念は時点・レベル共に有意差はないが、
26	51	重大性ともは中間時	重大性ともに中間時
27	51	中間時に下がり、	中間時に下がり、
28	51	ディスカッション・スキルの場の進行と対処は、 上級クラスのみ中間時に下がった	ディスカッション・スキルの場の進行と対処は、 中級クラスのみ中間時に下がった
29	51	コミュニケーション不安は全体でみると中級と 上級クラスみが	コミュニケーション不安は全体でみると中級と 上級クラスが
30	52	表の4.12 の 数値の位置が不揃い	表の4.12 の 数値の位置を揃える

愛知県立大学大学院国際文化研究科 国際文化専攻 和田珠実 正誤表

タイトル		協同学習・LTD(話し合い学習法)授業モデルによる英語リーディング授業の改善と成果: －英語自己効力感の観点から－	
校正箇所			
No	頁	誤	正
31	58	図4.12 LTD導入後の予習例の不明瞭さ	図4.12 LTD導入後の予習例の明瞭さを向上
32	61	表4-17 1回目と2回目の授業コメントの抽出語と文章の数に見出し「LTD実施回」を入れる	
33	62	クラスター分析を行いそれぞれの語が	クラスター分析を行いそれぞれの語が
34	63	〈4-15〉	(4-15)
35	68	個々の記述は分類した結果が	個々の記述を分類した結果が
36	69	信憑性確保のため	信頼性確保のため
37	70	その場限りの楽しさや	その場限りの楽しさや
38	73	LTDを2学期に渡り体験した	LTDを2学期に亘り体験した
39	80	反し合いメモ欄に、	話し合いメモ欄に、
40	86	「～～。」	「～～」句点を取る
41	90	実直性高い	実直性が高い
42	92	コロナ渦	コロナ禍
43	94	予習してきたことを話し合った後と、	予習してきたことを話し合った後と、
44	96	それに対しての 倫理的配慮として、	それに対しての倫理的配慮として、
45	97	回答時期と回答時期 (各1章／3章／5章の授業プリント実施直前)	授業形式両群と回答時期 (各1章／3章／5章の授業プリント実施直前)
46	98	シラバスに定められた	シラバスに定められた
47	98	グループでの目標をかかげ、	グループでの目標をかかげ、
48	101	何でも記入できるように、	何でも記入できるように、
49	120	学期開始により学期末のほうが高くなった。	学期開始時より学期末のほうが高くなった。
50	121	回答時期の授業形式	回答時期と授業形式
51	122	話し合いスキルに効果的であることが認められた。	話し合いスキルに効果的であることが認められた。
52	123	心理がより強く反映されていと	心理がより強く反映されていると
53	124	話し合いについては、	話し合いについては、
54	124	英語の英語リーディング授業	大学の英語リーディング授業
55	125	学生が他者を傷つけることなく	学生が他者を傷つけることなく
56	125	深い話しが成立し	深い話が成立し
57	127	英語レベルは、では中級・上級クラスの学生	英語レベルは、中級・上級クラスの学生
58	129	特に協同学習の互恵的か協力関係	特に協同学習の互恵的な協力関係
59	130	探索すること最適だと思われる。	探索することが最適だと思われる。
60	130	他の科目や生活な中で活用し	他の科目や生活の中で活用し
61	132	LTDのステップごと検証も今度の課題である。	LTDのステップごと検証も今後の課題である。
62	132	英語授業本研究者として	英語授業実践者として